

RHSJ

英国王立園芸協会日本支部

The Japan Branch of
The Royal Horticultural Society



2001

12

■私の英国紀行「コーフ・カースル」大石健三	1
■今月のダイジェスト	2
■ウィズリーの種子	
“庭で活かせる” 選び方・播き方 三橋理恵子	4
■ガーデン・メドレーリレー／真木さんの庭を守谷さんが訪ねる	8
■山形の野生植物を活かした庭園 ミスト・ガーデン	10
■RHSJ理事を辞して 鈴木英雄	13
■ウィズリーの種子 申込方法 ご案内	14
■フォウリッジクラブ	16
■レポート：キッチンガーデンクラブ	17
■レポート：中京・東海ガーデニングクラブ	18
■レポート：関西ガーデニングクラブ	18
■レポート：されどチューリップ	19
■花酔緑想	19
■事務局だより	20

イベント インフォメーション

■2002フロリアードとチェルシーフラワーショウの旅	11
■新春グリーンサロン：英国・花の香りを求めて	12
■グリーンサロン：ガーデンアンティークを楽しむ	12
■2002年第1回アルパインプランツ・ガーデンクラブ	17

The Garden 11月号

■News	英文p.819	22	■読めをもっと良くしよう		
■トラDESCANTのダイアリー			Improving the Outlook	英文p.850	37
Tradescant's Diary	英文p.825	25	■バーダムの功績 ～クラブアップル <i>Malus transitoria</i> ～		
■植物を第一に			Mr Purdom's Triumph	英文p.858	40
Putting Plants First	英文p.826	26	■オオベンケイソウ		
■完璧を求めて ～エリック・ヤング・ラン財団～			<i>Sedum spectabile</i>	英文p.860	41
Seeking Perfection	英文p.830	28	■太古から生き延びてきた植物 トクス属		
■イチイの活躍			The Great Survivors	英文p.861	42
It has to be yew	英文p.833	30	■ターフ・ワークス 芝草の芸術		
■速く育て			Turf Works	英文p.864	44
Fast Forward	英文p.840	32	■アイルランドのパラダイス		
■新しいスイス・チャード			Irish Cream	英文p.866	45
Swiss Chard	英文p.844	34	■彫刻と庭園—互いを高める場所		
■鉢植え果樹のすすめ			A Place for Everything	英文p.870	47
Moveable Feasts	英文p.846	35	■今月の園芸家の本棚		48
			■ウィズリーの種子リスト 翻訳版2002		50

山形の野生植物を活かした庭園

ミスト・ガーデン (10～11ページ)

月山と朝日連峰に囲まれた、自然豊かなプライベート・ガーデンが山形県に誕生しました。雑木林をそのまま活かしたガーデン内では、季節ごとの野生植物が次々と花を咲かせます。



ミスト・ガーデン内で見られるミズバショウの群落。ザゼンウもあちこちから顔を出している。
(写真/武浪秋夫)

ミスト・ガーデンの雑木林のスペース。木道が落葉樹の間を縫うように続き、訪れた人を林の奥へと誘う。
(11月上旬。写真/武浪秋夫)

山形の野生植物を活かした庭園

ミスト・ガーデン

ミズバショウ、ザゼンソウ、リュウキンカ・・・。

山形県西川町は、野生植物の宝庫です。

これら自然の植物を活かしたプライベート・ガーデンが誕生しました。

文責・編集部



ミスト・ガーデンの家屋部分。
家の後方に朝日連峰が見える。(写真/武浪秋)

ウッドランド・ガーデン

月山と朝日連峰に囲まれた山あいの町、山形県西川町大井沢。この地に、2400坪のプライベート・ガーデン「ミスト・ガーデン」が生まれました。オーナーは、長年植物関係の仕事に携わってきた武浪てる子さん。ガーデンデザインをはじめとして、さまざまな分野で20年以上も植物と関わってきた武浪さんは、「いずれは故郷の山形で、植物に囲まれて暮らしたい」という夢をあたため続けてきました。3年前から雑木林を造成し、家を立て、こつこつと庭づくりを始め、今年の10月にミスト・ガーデンとして一般公開に踏み切ったのです。

ミスト・ガーデンは、雑木林のスペースと開けた芝生のスペースに分かれています。特徴的なのは雑木林のスペース。「この辺りは雑木林が伐採されつつあります。わずかに残っていたこの雑木林を手に入れられたのはラッキーでした。すべてが人工的に作られた庭にははたくなかったのです。日本の美しい自然の風景を、庭という形で少しでも残していくことができれば、と考えました」という武浪さんの言葉通り、ここでは大井沢の自生植物が非常に多く見られます。造成前はササやシダ類、低木で樹林下は鬱蒼としていましたが、これらを刈り取ることでミズバショウ、ザゼンソウ、リュウキンカなどが殖えはじめ、今では5月になるとミズバショウの群落の中にザゼンソウがあちこちで顔を出す、という風景が見られるまでになりました。「6月にはムラサキヤシオツツジが紫がかったピンクの花を一斉に咲かせて、本当にきれいですよ」と武浪さんは顔を綻ばせます。他にもカククリ、ツルリンドウ、ヒメサユリ、ショウジョウバカマ、キクザキイチリンソウ、マイヅルソウなど、じつに多くの野生植物が自生しています。地元の大井沢自然博物館の学芸員であり、地域の自生種に詳しい娘の秀子さんによると、「朝日連峰から月山にかけての地域は貴重な植物の自生地が多いところ。ミズナラの変異種で葉縁が深く切れ込んだハゴロモミズナラや、トガクシショウマなどの希少種も発見

されているんですよ」とのこと。ここ大井沢が、いかに自然豊かな場所であるかが伺われます。

雑木林のスペースは、クリ、ミズナラなどを中心とした落葉樹が多く、そのほとんどが伐採せずに残されています。その間を縫うように作られた木道の曲線が、庭に自然な奥行きを与えています。木道の塗料には、植物への影響を考慮して化学製品は使わず、京都から熟成5年ものの柿渋を取り寄せたそうです。

野生の果樹と草花の組み合わせ

雑木林のスペースは野生種を活かすため、スイセンとスノードロップ以外の園芸品種は植えられていません。一方で、雑木林と家屋の間にある芝生のスペースは園芸植物を中心に構成され、雑木林のスペースと好対照をなしています。ここは石の多いススキの原でしたが、石を取り除いて造成し、パーク堆肥と山の土を入れて土壌改良したそうです。芝生に添ったならかな小径は、ウズリーの頒布種子から育てたキャットミントをはじめ、スイートアリッサム、オキナグサ、ザンゼツソウなどで縁取られています。花壇にはアスチルベ、シャクヤク、ハマナス、ワレモコウ、チョコレートコスモス、ジギタリス、スカビオサ、デルフィニウムなどが植えられ、初夏には雑木林を背景に華やかな風景が展開される予定です。「樹木類の植え付けは、まだこれから。ここは豪雪地帯で冬は雪が3mも積もるので、果樹は栽培品種が育たないので、その代わりに、ナシやスモモの野生種があるので、それを植えようかと考えています」と武浪さん。来年の春は、野生の果樹と宿根草類の組み合わせが見られるかもしれません。

植物と人が共存する庭

2400坪という面積は、個人庭園としてはかなり広大で、管理には多大な時間と労力が費やされます。週に3日は庭仕事のために閉園し、早朝から日暮れまで苗づくり、除草、植え込み、材料調

達と、休みなく作業が続けられています。公的な援助を受けたらどうか、という意見もありましたが、武浪さんはあえて自分達の手で作りに上げていく道を選びました。現在は、親戚、友人、地域の人々の協力のみで庭づくりが行われています。「公的な援助を受けるには、観光スポットとしてのPRが条件となってきます。この庭の目的は、地域の植物と私達が共存して暮らすこと。本当に植物の好きな人だけがここを訪れて、なにかを感じていただければ充分なのです」と武浪さん。その気持ちが家族や親戚、周囲の人々の心を動かし、ガーデンの運営を助けているのでしょう。

どんなスタイルにも媚びない、自然を手本とした野生植物の庭づくり。さまざまなオープンガーデンが誕生しつつある昨今、ミスト・ガーデンは、私達に新しい庭のあり方を提案してくれます。「日本の野生植物にとって、少しでもこの庭が役に立てれば嬉しい」という武浪さんの言葉が印象的でした。

〈ミスト・ガーデン〉

公開日：金、土、日、月曜日(火～木曜日は休園)

山形県西村山郡西川町大井沢171-7

<http://www.mistgarden.net>



ミスト・ガーデンの落葉樹下に自生するザゼンソウ。(写真/武浪秋夫)



ガーデン内に咲くキクザキチリンソウ。(写真/武浪秋夫)



秋の雑木林内はキノコ類も豊富。クリダケの隣に自生するスマレ。